

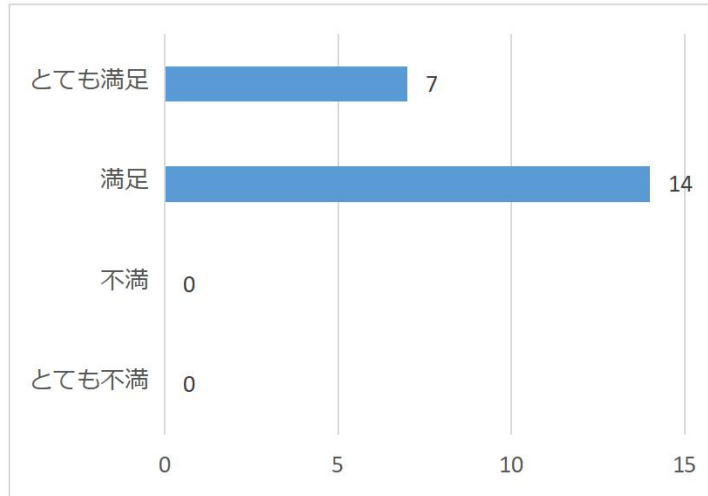
# 介護デジタルハッカソン アンケート集計結果

- アンケート実施期間：令和4年2月24日～3月13日
- 回答者：21名（全参加者30名、回答率70%）

## ■ アンケート内容

- Q1.最終審査を終えて、ハッカソン全体についての満足度はいかがでしたか。
- Q2. Q1について具体的に満足したこと、不満点などありましたらお聞かせください。
- Q3.ハッカソンを通じて、介護に対する興味・関心は高まりましたか。
- Q4. Q3に関して、感想や印象に残ったことがありましたらお聞かせください。
- Q5.ハッカソンを通じて、課題解決に向けて、デジタル技術を活用して新しいものを生み出すことに興味・関心は高まりましたか。
- Q6.ハッカソンを通じて、課題解決に向けて、デジタル技術を活用して新しいものを生み出すことができるという視点が身につきましたか。
- Q7. Q5とQ6に関して、感想や印象に残ったことがありましたらお聞かせください。
- Q8.チーム活動について満足度はいかがでしたか。
- Q9. Q8に関して、感想やご意見がありましたらお聞かせください。
- Q10.ハッカソンに参加したことでご自身の成長に役立ったと感じたことがあればお聞かせください。
- Q11.今回のハッカソンを通じて、「こういう機会があればもっと成長できた」ことがあればお聞かせください。
- Q12.運営（事務局、メンターなど）について満足度はいかがですか。
- Q13. Q12に関して、コメントがありましたらお聞かせください。
- Q14.ハッカソンでできたソリューションをプロジェクトとして進めていきたいですか。
- Q15.次回ハッカソンが開催された時、メンターをやってみたい、もう一度参加者として参加したいなど、お考えがあればお聞かせください。
- Q16.「介護」以外で挑んでみたい課題があればお聞かせください。
- Q17.その他、ハッカソン全体に対してご意見等がありましたらお聞かせください。

## Q1.最終審査を終えて、ハッカソン全体についての満足度はいかがでしたか。



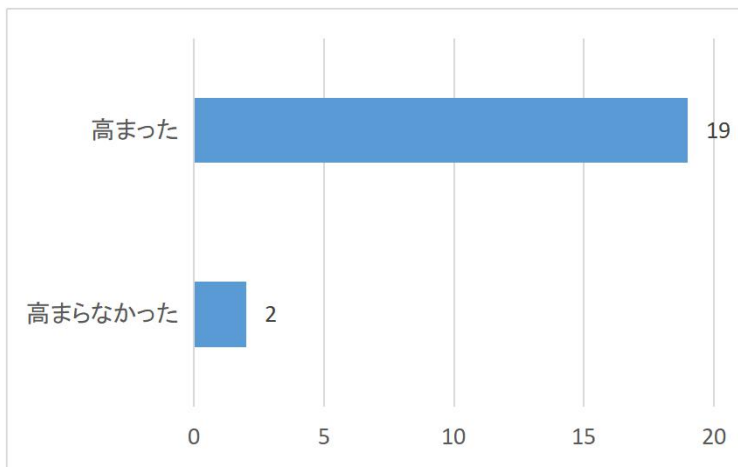
### ●とても満足

- ・介護、デジタル分野に関して経験・知識ゼロから始めて最後発表までやり切ることができたので、自己の成長や自信に繋がりました！
- ・世代が違う方達と仲良くなれた
- ・他学校や社会人の方々との交流で、自分が考えもしないようなこと、知らなかったことなどを会議を通して学ぶことができ、テーマ内容についてだけではなく個人的に物事の視野を広げることができました。
- ・最後の評価でもしそれを実現するためにはもっとどうしたら良かったなどプロからの教えがあり何が足りなかったのかなどが明確にわかった所
- ・チームが一丸となって取り組めたこと。
- ・アイデアを発表するだけでなく、プロジェクト化という次に繋げるステップがあるから。
- ・たくさんチーム内で話し合える機会があり、その中で関わったことのない方々と知らない知識の教え合いや、得た知識を活用しアイデアを出すことがとても面白かったです。

### ●満足

- ・最後までやり遂げたという達成感がすごく大きかった。不満点としては、メンバーとのやりとりが円滑でなかったことや対面での会議が多くできなかったこと。
- ・3ヶ月間試行錯誤してたどり着いた案について良い評価がもらえたから
- ・話の出来る大人の方がいらしたことが満足したことです。
- ・とても良い活動だと思いました。学生によっては「この会でやりたいこと」が異なっており意見を集約させることが難しい時がありました。
- ・話し合いや専門家の意見を重ね考える機会なんて中々無いので良い経験になりました。
- ・会議が少し長くなってしまふ事が負担にはなりましたが、総合的に満足です。
- ・時間をかけてひとつの発表をすることが出来たことがほっとした
- ・ソリューション案に対する説明が不足でした
- ・介護現場の声を直接聞くことができたから。
- ・様々な分野に特化した専門家の方々と、同世代の方々と交流し、自分自身の視野が広がった。
- ・反省点がでてきた。
- ・今回の活動を通して、たくさんの方と関わることができました。
- ・異業種交流や今後の下関市を支える学生の方々と介護に関わる意見交換をすることができ、貴重な体験をさせていただきました。
- ・介護分野に携わるものとして大変参考になりました。
- ・介護職員の高齢化や離職率が高い背景があること、運営するにあたりまだまだアナログな部分が多いところに効率化を目指したもののや介護職を魅力あるものとしてアピールできるようなアイデアが具体的に沢山生み出されたことについて参加者ながら充実感を覚えました。
- ・普通に生活していたら関わることの無かった業種の方や大学生たちと様々な意見交換や雑談まで、刺激になることが多かったです。
- ・コロナ禍ということもあり、難しいことですが、ヒアリングや現場状況の調査などを対面で行える機会が欲しかったです。

## Q3.ハッカソンを通じて、介護に対する興味・関心は高まりましたか。



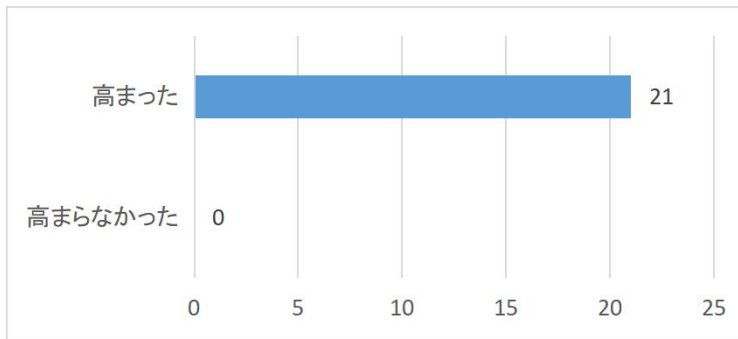
### ●高まった

- ・過労働や人材不足など介護職の課題解決の大変さを改めて実感しました。自分も歳をとり、いつか介護者のように生きていくうえで支障が出てきたときに介護してくれる人がいなかったら、と考えるとやはりITに介護してもらうことがあるのかなと考えさせられました。
- ・介護の知識が何もなかったのが介護について知ることができた
- ・発表の度に審査員の方から率直なアドバイスを頂くことができたので、ソリューションの課題や良さに気づくことができました！
- ・父の仕事が介護関係でしたのでそれに伴う話を交わす機会ができた、祖父母の話聞いてみようという意欲が湧いたり、両親の介護に対する希望を聞くことが出来ました。
- ・介護に少しでも興味をもっただけなら嬉しいです。
- ・どうしたら介護における問題点や大変な点を解決できるか考えていこうと思うようになりました。
- ・自分だけでは見つけられなかった視点を持つことが出来た
- ・介護ヘルパーについて発表している班がいたが、一日の勤務表など見るととても大変な仕事だと改めて感じた。その他にも色々な介護事業所の内容を知ることができ、勉強になった。
- ・下関市の介護現状について分からないことが多かったですが解決できたことがよくありました
- ・認知症について知ることができたこと。
- ・介護は大変というイメージはありましたが、具体的に何が大変なのか、どんな問題があるのかを日々生活している中で深掘りしようとは思いませんでした。今回参加してみて、介護する人、される人、どちらの悩みも負担も学び、いずれ自分もそうな未来は必ずある以上、今回得たことは決して忘れてはいけないものだと思えて介護に目を向けることができました。
- ・今まで興味がなく何も知らない状態だったけど、実際に介護について話をグループ内で進めていく中で今の介護の現状など知ることができて学びを深めることができた。
- ・介護についてはそれほどかんがえたことはなかったが、この経験を通して、より実践的に学ぶことができた。
- ・今回の活動で、今まで知らなかった介護現場での問題や課題などを深く知ることができました。
- ・介護に携わるものとしては、自身の担当部署(分野)の中でどのようなことができるのかと思考するばかりでしたが、ハッカソンを通じて多様な意見が出たことで様々な分野でフォーマルサービス・インフォーマルサービスを活用し高齢者の生活の質を高められる可能性が十分にあると感じることができました。
- ・人材不足は人気不足と考えていましたが、介護現場では身体を壊すため長く続けられないということが印象に残りました。
- ・他の人材不足の業態にも人気不足以外の違う側面があるのではないかと。どんな原因があるのか調べたい！と思いました。
- ・介護保険法は細かい規定が多く身動きが取りづらいため、いくつも案を出すのは難しいのではと思っていましたが、様々な視点から解決策が出て、頭が固くなっていたなと気付くことができました。
- ・認知症にも段階が軽・中・重の以外に間にも段階があったり、世の中にはもうすでに、それについていろんな取り組みがあることが驚いたと同時に、それを知らなかったのもっと広まればいいのになあと思いました。
- ・普段生活していて、介護のことはニュースで良く聞きますが、実際に自分たちの抱える社会問題として取り組むことができたので、参加して本当に良かったと思っています。

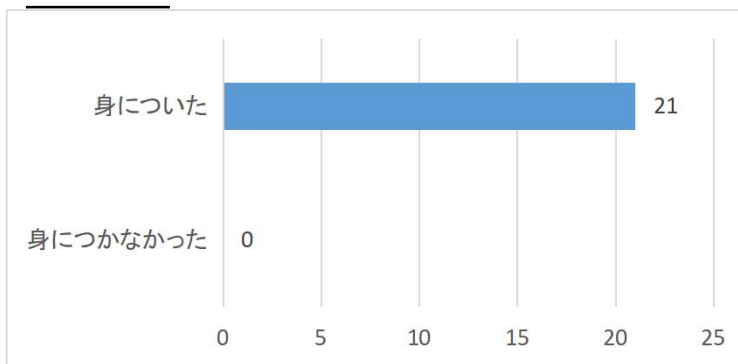
### ●高まらなかった

- ・介護とはどういうものか、どういう人達がどのように行っているか等をたくさん調べたことで、自分が知らない所で、こんなに大変な思いをしている人達がいることに気づき、心が痛くなった。介護を経験したことのない私が思いつく案は、上辺だけの助けでしかなく、本当に被介護者の心に寄り添うことができないことが歯痒かった。
- ・介護の問題について、未だに気づけていないことが多いと知った。

## Q5.ハッカソンを通じて、課題解決に向けて、デジタル技術を活用して新しいものを生み出すことに興味・関心は高まりましたか。

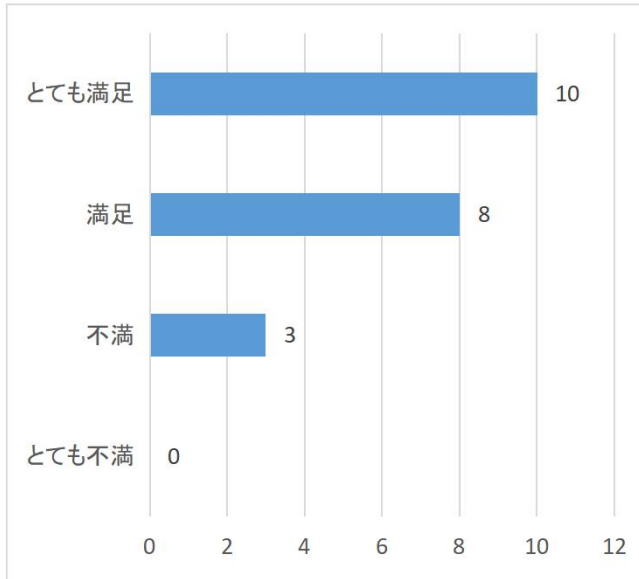


## Q6.ハッカソンを通じて、課題解決に向けて、デジタル技術を活用して新しいものを生み出すことができるという視点が身につきましたか。



- ・今までチームで人の役に立つ何かを考案するという経験がなかったため、とても新鮮な気持ちで取り組むことができた。ただし、そのために知識と広い視野と柔軟な考え方がいるなと思いました。
- ・デジタル技術を駆使して物を作る大変さを知った
- ・実現するには複雑なソリューションでしたが、現場のことをしっかり把握できているという評価を頂けたことが印象に残っています！
- ・デジタルの機器は沢山既に存在しており、新しいものを生み出すことが良いという考えも理解できますが、既に存在しているものを多くの人たちが手にとって触れて初めてを体感することがどれだけ人に希望を与え続けることかを知ることが出来たら自分は良いと思いました。なので、既に存在する機器の調査と機器を普及する活動に携わる機会の創出が先決ではないかと考えております。
- ・アプリを自分でも作成できることが分かったので、自社のために作成してみたいと思いました。
- ・新しいものを生み出すのは技術者や見識者であるという先入観がなくなりました
- ・想像力が乏しく既存のものを前提とした発想しか出来なかったのもっと様々なものに触れ柔らかい頭を持ちたいと思った
- ・介護をしていく上で起こる課題を、どうデジタルと組み合わせるか、デジタル方面と介護方面で調べていき、その上でお年寄りの方に使いやすいようにしていくにはどうその機能の難しいところを削ぎ落としていくかなど考えていくのが楽しかった。
- ・デジタルに興味を持つことができた。
- ・なんでもかんでもデジタルに頼ることはあまり良い印象ではありませんでしたが、デジタルを使うことでより多くの人に良いモノを提供できるという因果関係が構築されるならば、否定ばかりしてはいられないなと思いました。
- ・自分一人ではデジタル技術を活用して何か新しいものを生み出すという発想にはならなかったけど、今回ハッカソンに参加してデジタル技術を活用して新しいものを開発することの楽しさやそれが評価された時の喜びを知り何も知らない一からの状態でもできるということが分かった。
- ・小さいコンピューター機器など、デジタル技術というのは奥が深いと感じた。
- ・もともとホームページの制作やアプリ作成に興味があったため、専門家の方々にお話を聞くことができとても嬉しかった。また、アプリのデモ作成も楽しく、自分に向いているのだと改めて気づくことが出来た。
- ・新しい発見がたくさんありました、
- ・デジタルの力で介護現場の問題解決というテーマは、様々な面で実現困難なことが多いなと感じました。今までにない新しいもので、実現性があるものを考えるのにとっても苦労しました。
- ・デジタル技術を活用し「新しいもの」を生み出すという点について、アイデアを出す中で発表時には「調べれば似たようなものがある」と言うフィードバックが返ってくることに難しさを感じました。念入りに情報を収集し、どのようなことに不便を感じているのか、困っているのか、どのような不安材料が隠れているのか等を見極め、それに対して今の技術でどこまで対応できるのか、コストはどの程度かかるのか、既存のものを介護に活用できるか等は、このような機会が無ければ考えもしなかったと思います。
- ・意外と技術協力の人は介入しないんだなと思いました。
- ・アプリは細かい内容を出したあとITの方たちに作ってもらえるものと思っていたため、自分たちで作ることを中間発表後に知って驚きました。私の想像力が足りなかったとは思いますが、初期の段階で明確に教えて貰えたらもう少し勉強時間を増やせたと思います。今回アプリ制作等が得意な学生がどれだけいたかはわかりませんが、少なくともチームBにはいなかったもので、最初から勉強して作成するには余りにも時間が足りなかったです。
- ・文系学生の私はまさか自分にもデジタル技術について、アイデアを出して、それを簡易的なアプリ、サイトとして落とし込むことができたことに大きな驚きと達成感がありました。
- ・ITを使って課題解決を行うことが、ITに知識のなかった自分自身にとって実現可能なか最初は不安を抱えていました。そんな中、介護の現状と理想に向き合い、そこに見出されたニーズに沿ってITの技術を使おうとするプロセスを踏むことで、ITの有識者の方にアドバイスを頂く中で、私たちにも貢献できるんだと改めて感じました。

## Q8.チーム活動について満足度はいかがでしたか。



### ●とても満足

- ・チームで同じ思いを持ってやり抜くやりがいを感じられました！
- ・大学生の方と一緒にやってきたが、その人たちが専攻していたり、バイトで培ってきた知識など自分にはない視点を持っており知識が増えた。
- ・皆さんの一つ一つの意見がどれもチームに良い結果を出して、笑い沢山ではありながら真面目過ぎるグループでとても楽しかったです。
- ・グループ内でたくさんの意見を出し合い、自分の意見が良かった悪かったなど実際にメンバーが直接意見してくれることでさらに良い意見にしようという意欲が湧きグループ丸となって目標に向かうことができ協力の大切さなどたくさんのことを学べた。
- ・チームのメンバーに恵まれ、とても楽しかった。
- ・自身が参加したチームは、学生の方々が中心となり積極的に情報を収集しアイデアを出し、チームをまとめてくださいました。
- ・学生の方々も「このような機会は今後の自身の糧となる」と自覚されており、馴染みのない業種に分からないことも沢山あり苦労されたと思いますが、責任感を持って良い熱量で問題意識や取り組みたいと考える課題、それを解決するためのソリューション案について意見交換をされていました。それに応えるべくできる限りの情報提供や思いを伝えさせていただきました。そのような方々とチームを組めたことに喜びを感じています。
- ・みんなきちんとしていたから
- ・最初、オンライン会議だけでは打ち解けることができず、初めの頃は全く会議が進みませんでした。そこでコロナ感染者も少ない時期に数回直接会って会議してやっと色々言い合える関係ができ、それからはとても楽しく活動できました。恐らく学校であれば、キックオフイベントの際に仲良くなる時間等が設けられるのだと思いますが、人間関係の構築からソリューション案の発表まで全てチームで考えて行うというのは本当に社会そのもので新しく楽しかったです。また、募集の時に一緒にチームにして欲しい人の記載欄がありましたが、キックオフの時にチーム移動を行えるようにするのであれば、仲良い人を固めないほうが色々な人と交流ができて良いと思います。そうした時には、役所の人も固まることのないようにしたほうが平等かなと思います。
- ・チームのみんなが短くても時間を割いてくれることや意見や進捗状況での悩みなどを聞いてくれることがとても頼りにもなりましたし、楽しく会議やプロジェクトを進められました。
- ・チームの中で、様々な意見が出た時にどうまとめるか、そしてスケジュール管理など困難なことがありましたが、1つの目標に向かってたくさんの発想をチームメンバーでかたちにしていくことは、とても楽しかったです。

### ●満足

- ・知らない人たちとチームとして動くのは社会人になればよくある事だと聞きました。私は学生なので知った人とのグループワークしかやったことがないので、それも体験することが出来て良かった。真剣に取り組んでいる人と任せきりにしている人が明確に分かり、嫌な気持ちになったことがあるので反面教師として私も真剣に取り組む、周りを嫌な気持ちにさせないようにしようと思った。
- ・みんなで試行錯誤しながらも協力できたので満足している
- ・俯瞰視することが大切だと感じます。
- ・とても個性的な学生が多く集まっていたように感じました。個別に話を聞いていくと介護への思いが個々で違っていただけのようでした。ただバイトの関係で開始が20時や21時開始が多かったため何か違う情報共有の手段が取れないかと考えました。
- ・会議の時間が長い所が負担でした。メンバーやメンターさんと仲良くなれ、普段関わることの無い学生さんと話す機会をいただけたのは有り難く、楽しかったです。
- ・時間通りに進めることが難しかった
- ・チームスを使うのが慣れていなくて、意思疎通が難しかった。

### ●不満

- ・大学生との時間が合わないため、会議や打ち合わせの日程調整が大変だった。大学生、社会人で班を分けた方が良かったと思った。
- ・もう少し自分ごととして捉えられる機会を作ればよかった。
- ・学生や社会人が同じ班にいて、いろんな視点からの意見が出るというメリットはあるが、学校や仕事という普段の生活リズムが違うことから、定例会議やヒアリングなどの時間を合わせることも大変でした。

## Q10.ハッカソンに参加したことでご自身の成長に役立ったと感じたことがあればお聞かせください。

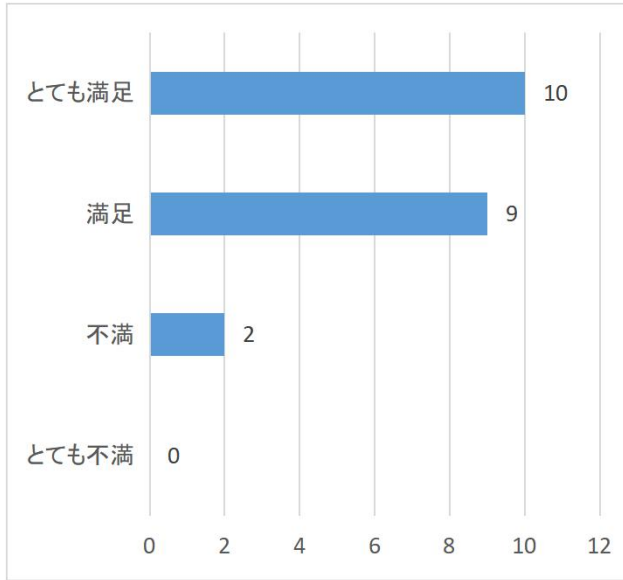
- ・アイデアやアプリ開発はとても勉強になりました
  - ・あまりグループディスカッションなどをする機会がないので自分の不慣れさを痛感しましたが、ハッカソンに参加した成果が就活の際に自分を積極的に出すことができ成長に繋がったのではないかと思います。
  - ・グループワークは情報を共有し合ったり自分の意見を発信したりしなければならないところが苦手だったが、頻繁に連絡をとり、意見交換や情報の共有がきんできていたのが成長したと感じた。
  - ・こういうプロジェクトに参加したことがなく、尚且つ介護もデジタル技術の知識も誰一人いない班での活動だったので初めは不安でしたが私たちでもここまでできるんだと改めて思い知らされた
  - ・ハッカソンに参加させて頂いたことで、物事を広く見ることと、そしてチームのマネジメント力が身につきました。介護業界への印象も大きく変わりました。
  - ・パワーポイントの作成や発表での話し方を考えたり会議に参加することの心構えを考えたりすることが出来ました。
  - ・まったく知識のないところからの情報収集の仕方や初対面の人とチームを組んで進めていく力が身につきました
- 仮説思考の重要性に気づけました！
- ・介護の課題に対しての知識が身につきました。
  - ・介護の現状や知識について知ることができ、興味を持てた。就活に生かしていきたい。
  - ・介護の知識がとても増え成長を感じた
  - ・今回のハッカソンのチームでは、年齢が上だったこともあり、必然的にチームをまとめる立場を経験した。それによって、自分自身が職場の上司や先輩と同じ立場に立ち、大学生達の姿から、後輩のあるべき姿を客観視することが出来た。意見は自発的に言う、言われたこと+aの行動をする等、日頃私が職場で行うべき行動を、違う立場からみることで、気づくことができた。
  - ・初対面の誰かと一緒にやり遂げる時のアプローチや慣れない分野で大変だったけど達成感がとてもあったことです。
  - ・人前に立って話すことや自分の意見をしっかりと発言する、アイデアを発案すると言ったこれから社会に出る中で大切なものをたくさん身につけることができた。
  - ・知らないことを知った。
  - ・日常生活面ではオンライン会議のツールを使えるようになったのが1番大きいです。私が学生の頃より、大分進んでいるなあと感慨深いです。
  - ・年下の学生がリーダーを務めているため、自分は社会人としてチームを影で支えられるよう努めましたがとても難しく、苦手分野なんだとわかりました。市役所の若手職員が来年も参加するのであれば、リーダーほど先頭に立たず裏でチームをまとめたりサポートする経験を是非してもらいたいです。
  - ・普段プレゼンテーションなどをする機会があまりないため、発表に向けての資料作りや、ヒアリングなどの事前準備の大切さを、今回の活動を通して学ぶことができました。
  - ・分からない分野について有識者に質問を積極的に行うチームメンバーの行動を見ると、不得意分野があってもそれを補ってくれるメンバーや熱量を持った人が集まれば、良いものが生まれるとわかりました。学生の方々を見習い、自身の活動方針として取り入れたいと思います。

## Q11.今回のハッカソンを通じて、「こういう機会があればもっと成長できた」ことがあればお聞かせください。

- ・teams以外に直接会って話せる場
- ・キックオフの流れの説明の際に事例を交えてもう少し具体的に教えてくだされば、不安なく活動できたかなと思いました。ハッカソン自体初めて耳にする身としては、初期は分かってないまま流されるがままに活動した感じがありました。
- ・キックオフ後や中間発表後にももう少しその分野について深められる勉強会やフィードバックの時間があればとおもいました。
- ・このままで良いと思います
- ・デジタルに関する知識があまりないまま、デジタルの力で介護問題を解決しようと話合ったため、独創的なアイデアなどが浮かばず、最初の話し合いから意見がまとまらなかったため、キックオフであったように、介護職員から介護現場の問題などの説明があったのと同様に、技術メンターによる簡単なデジタルに対する講義等があれば、デジタルがもたらす効果など、発表に対していいアイデア作りに役立てることができたのではないかと思います。
- ・なかなか全員で直接会って活動することができなかつたので、全員で集まる日を全体で取ってほしかつた。
- ・ハッカソンの中では、そのようなことはなかつたが、介護×ICT以外に地域活性化×ICTなど幅が広がっていけばうれしいと感じました。
- ・ペルソナではなく、実際の下関の事業所や利用者、その家族が不満に思っていることが明確であること。これによってより根本的な解決案を提案できたと思います。
- ・メンターさんに質問したいことが文字でのやりとりが多かつたため、直接質問に行く機会がもっと多くあれば良かったと思います。
- ・リーダーサブリーダー以外にも一人一人の役割があれば誰一人サボることなく、もっと良くなると思う
- ・会議を開く前に議題を設定して、会議に必要な人だけを集めてする機会です。
- ・会議を対面で行うこと。
- ・現地視察があれば理解してをより深くできたと思います！
- ・考えたアプリを実現化するまでの期間があると、さらに成長できたと感じます。
- ・最終発表した後に、審査員の方には講評してもらえましたが、ソリューション案以外に全体の活動や発表の仕方を見て、もっとこうしたいほうがいいみたいな意見がもらえると、もっと今後の仕事に生かせると思いました。また、他のチームの発表を見ていて自分ならこうしたい、審査員の方は言わなかつたけどここが良かった等思うことがあつたので、匿名でもいいので参加者である私たちにも他のチームに対して一言感想が伝えられるような様式が配布され、後でフィードバックもらえると、もっと良い経験ができる企画になると感じました。
- ・参加していただいている大学教授の方の授業を受けられる機会



## Q12.運営（事務局、メンターなど）について満足度はいかがですか。



### ●とても満足

- ・発表ギリギリに提出した質問にもひとつひとつ丁寧に回答して下さい、ありがとうございました。
- ・率直に意見を下さったので改善する際にスムーズでした！
- ・メンターさん（亀谷さん）ありがとうございました。プレブレな会議を誘導して下さったおかげで、無事に発表会に参加できました。
- ・対応がスムーズで常に参加者の方々と真剣に向き合ってくださいました。チームが求めるビジョンに対して上手くアドバイスを提供してくださいとても感謝しています。
- ・親身になって話しを聞いてくださったり、これからどのようなことをしていけば良いかの道のりなどを教えてくださいとても頼りになりました。
- ・亀谷さん、村重さんをはじめ多くの方のアドバイスがあったからこそ、生まれたソリューション案だと感じました。貴重なアドバイスをありがとうございました。
- ・優しい方です。たくさん助けて頂きました！
- ・メンターの方々や市役所の方々には、たくさん助けられました。特に正村さんやメンターの方々には迅速にフィードバックや仲介をもらったので、とても助かりました。

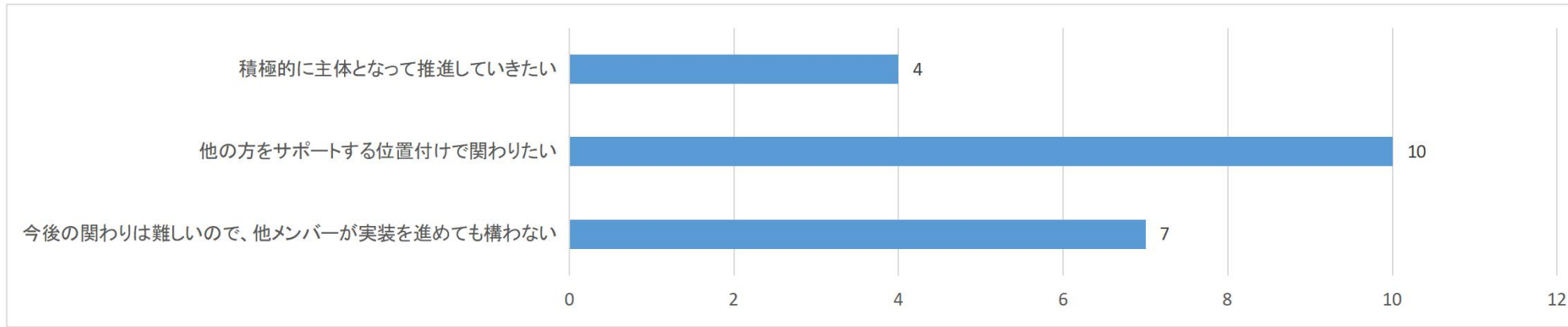
### ●満足

- ・メンターにいらした渋谷さんは会議の進め方など総合的に評価する存在で心強かったです。
- ・ソリューション案が、最終発表のときまでに、アイデアまででよいのか、実際に試作してある程度完成させなければならないのか明確に知らされていなかったのが戸惑った。キックオフのときにもう少し明確に示してほしい。
- ・事務局やメンターの方などに質問やヒアリングをした際に、丁寧に回答していただき、的確なアドバイスをしていただきました。
- ・専門分野に特化した意見をいただき、大変参考になりました。
- ・コロナ禍の中で滞りなく最終発表まで迎えられたことは運営の方の厳格な管理のもとだと思います。ありがとうございました。
- ・チームBで活動していたので他のチームはどんな声掛けが行われていたのかわかりませんが、最終発表前にメンターの方や村重さんにアドバイスを頂いたり発表を見て頂いたりして、もしチームBだけの待遇だったのなら不公平だと思いました。誰がメンターの方になるかもチームの運なので仕方ないと言われればそうかもしれませんが、座組や今後のビジネス展開について等は他のチームは触れていなかった記憶があるので、少し疑問でした。全体として丁寧でとても良い運営だったと思います。
- ・メンターの方とも、teamsでお互いにカメラをオンにしてお話しがしたかったです。

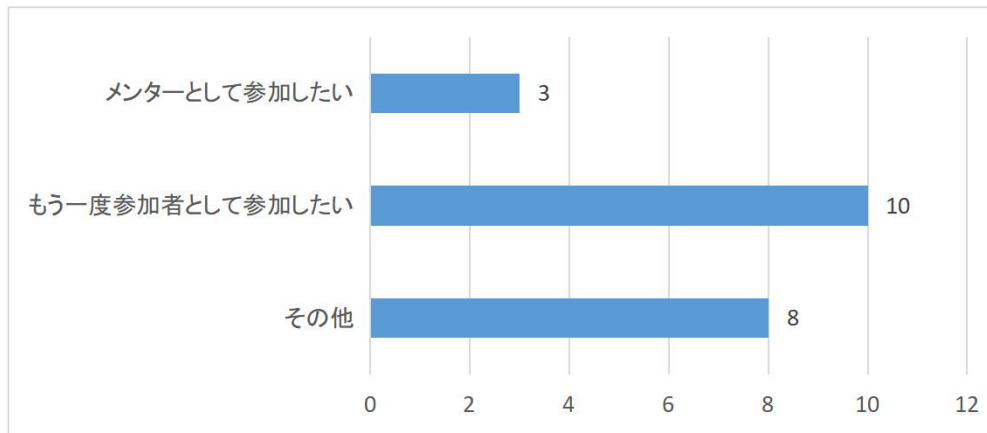
### ●不満

- ・もう少し早い段階でフォーマットの作成の案内がくれば余裕を持って発表の準備ができると思う
- ・最初は、介護の現場がこうなれば良いなという期待をこめた案を出したが実現性が低い等で意見を変えるべきだと言われ、次に実現性を重視した案を出すと夢を語ってほしい、面白くないと言われ、班のメンバー全員が困惑した。会議の際にも何度もこのことについて疑問があると訴えたが、言葉を濁されてしまった。開催の趣旨をぶらさないようにしてほしい。

## Q14.ハッカソンでできたソリューションをプロジェクトとして進めていきたいですか。



## Q15.ハッカソンでできたソリューションをプロジェクトとして進めていきたいですか。



### ●その他の回答

- ・このような良き機会を当法人（茜会）の様々な職員に体験してもらい、介護分野に携わる法人としての質向上が目指せたらと考えます。
- ・ソリューションを聞く側にまわりたいです！
- ・機会があればもう一度参加したい
- ・今回参加させていただいたため、次回は次の世代の方にハッカソンに取り組んでほしいと思う。若い世代に託したい
- ・就活、ゼミ等あり、参加が難しい。
- ・専門家として参加したい。
- ・大学3年生になり就職活動が忙しくなるため参加したいが活動に参加できない日が多くなると思うので厳しい

## Q16.「介護」以外で挑んでみたい課題があればお聞かせください。

- ・教育【4】
- ・環境問題【2】
- ・農業【2】
- ・行政サービス【2】
- ・こども関係
- ・子育て支援
- ・デジタル
- ・フードロス
- ・食
- ・観光
- ・地域活性化
- ・SDG s
- ・製造工場
- ・65歳以下の身体障害がある人や家族に対する課題
- ・人手不足解消や非接触を実現できるロボットに関する取り組み
- ・余暇活動、ストレス
- ・お片付け

## Q17.その他、ハッカソン全体に対してご意見等がありましたらお聞かせください。

- ・3ヶ月と言う短い期間ではありましたが、充実した時間を過ごすことができました。いろいろな方と意見交換をすることで、様々な視点から物事を見る大切さを学びました。
- ・とても画期的な企画で、その初回に参加できたことを光栄に思います。大変なこと多かったですが、自分自身の成長に大きく繋がりました。ありがとうございました。
- ・とても貴重な経験ができました。ありがとうございました。
- ・めちゃめちゃ楽しかったです。ありがとうございました。
- ・運営の方々がたくさんの支援をしてくださって最後までとても楽しいハッカソンになりました。ありがとうございました。
- ・運営やメンターの方などたくさんの方に協力していただき、班のメンバーとこの数ヶ月間一緒に学びながら課題に取り組むことができました。大変なことたくさんありましたが、最終発表を終えて、達成感を感じることができて良い経験になりました。これから介護の仕事に関わる上で、今回の活動で得た知識を活用していきたいと思います。
- ・応援しています。社会のためにボランティアで活動することは素晴らしいと思います。一時的でしたが参加させていただきましてありがとうございました。良い解決方法を生み出すことが出来なかったことはごめんなさい。
- ・参加者としてとても楽しく有意義な企画だったと思います。
- ・最終発表の際、北島副市長が、これは学校の授業などで行う解決案の発表ではなくこれから始める事業のプレゼンなのだと思って発表するように言っておられましたが、それがこのハッカソンと学校の授業を差別化できることだと思えます。今回のハッカソンの学生側のメリットは、介護の課題解決を通して知識ある人に相談できる環境で、擬似的な起業体験を行えることなのかなと思います。それを理解した上で活動した人がどれくらいいたと思うところはありました。学生は授業に慣れているので、あまりビジネス視点で考えていなかったと思います。チームBではそんな空気だったので、それなら初めから介護というテーマに沿って起業体験できる企画と伝えたほうがわかりやすいのではと思いました。将来学生達が何か始めたいと思った時に下関で起業してもらうことは市にとって大きなメリットだと思います。今回ハッカソンで話した学生はみんな色々な将来の夢を持っていて、意欲的な学生がずっと下関で活躍できたらいいなと思いました。素晴らしい企画をありがとうございました。
- ・自身の経験値を上げることと、今後のキャリアプランを思い描くことができました！貴重な機会を提供していただきありがとうございました！初めてハッカソンを体験し、自分ができるところをしてみても楽しいと感じたり、上手いかわずに悩んだりしたが、最終的な達成感がすごく大きかった。人前で発表するのも苦手でそれは克服できなかったのも、そこが少し悔しいです。
- ・人生のうちで、経験しておいて本当に良かったです。今回のハッカソンで考えたことをこのままにしておくことなく、本当に介護現場の役に立つ日がくるといいと思っています。
- ・貴重な機会を、ありがとうございました。
- ・短期間でしたが、学生とコミュニケーションがとれていろいろ考えさせられました。勉強になりました。